

検査機器の導入— X線検査装置—

税関では、輸出入貨物にかかる適切な関税の徴収や巧妙化する密輸手口の中けん銃や覚醒剤などの取締りのため、多種多様な機器を用いて水際取締りを行っている。



平 4.3 X線貨物検査車両を導入
X線検査装置を搭載し機動力を高め、保税蔵置場など移動して検査をおこなっている。



現在の移動式 X線検査装置



X線検査装置の導入

昭 59.3 監視部、昭 62.4 ポートアイランド出張所に設置
開披が困難な貨物の検査に使用し、検査対象貨物を破壊することなく隠匿された不正薬物等を確認することが可能であり、適正・迅速な通関を確保している。

現在では、輸出入貨物や旅客の携帯品検査に際して使用しており、空港など税関検査場に配備されており、覚醒剤やけん銃の発見に効果を発揮している。



平 19.3 車載式後方散乱エックス線検査装置の導入
従来の透過型の X線検査装置と異なり、X線を貨物に向かって照射し、対象貨物の横を低速で通り過ぎるだけで検査ができる。



平 14.3 大型 X線検査装置の導入
トラックの荷台に搭載したままコンテナ貨物を検査する装置であり、コンテナを開披することなく検査ができるため、適正・迅速な通関が行われている。

検査機器の導入—その他の検査機器—



ファイバースコープの検査状況
船内検査や輸出入貨物検査で直接目視できない奥まった狭小な場所を確認する時に使用している。



ビデオボアスコープによる検査状況
船内検査や輸出入貨物検査で直接目視できない奥まった狭小な場所を確認する時に使用しており、温度・圧力・油等の耐環境特性に優れている。モニターで確認することが可能になっている。



金属探知機による検査状況
電磁誘導を利用して金属の有無を探知する機器であり輸出入貨物検査等で使用している。



平 21.3 爆発物車載型探知装置の導入
貨物の表面等に付着している粒子を拭き取り、採取した物質を解析することにより、不正薬物・爆発物の痕跡の有無を確認する装置。



現在の金属探知機